

# だっこするよ

2025年 8月



社会福祉法人茂原高師保育園  
北区立赤羽台保育園  
園長 奥戸昌子

## 平和な社会を皆でつくろう！

暦の上では、立秋を迎えますが、立秋とは名ばかりの厳しい暑さが続いております。園庭へもなかなか遊びに出ることが難しい暑さです。

連日の報道でも熱中症への注意が呼びかけられています。引き続き、水分補給や室温管理を徹底し、子ども達の健康と安全を守って参ります。

先月の親子スポーツフェスティバルにはご参加有難うございました。どんどんさん達が決めたスローガン通り、元気いっぱいに愉しむことができました。そして、どんどんさん自身が「やりたい」と取り組んだパラバルーンやソーラン節、クライマックスのリレー…笑顔と涙とみんなのやりきった満足そうな表情…感動して思わず涙が溢れました。

さて、戦争後80年を迎えます。世界を見るとパレスチナ自治区ガザでは、人道支援も届かずに飢餓や爆撃で多くの人命が失われ、ロシアによるウクライナへの侵略戦争は3年半を越えても解決の糸口すら見つからない状況です。長引く戦争や紛争を止める人類の叡智は無いのでしょうか。早期解決へと祈るばかりです。

毎年、8月に絵本を通して「平和について」2歳児以上のクラスで伝え語り合う時間をもっています。広島原爆投下を再現した絵本「8月6日にうまれて」（中川ひろたか・文/長谷川義史・絵/河出書房）また「へいわとせんそう」（谷川俊太郎・文/Noritake・絵）この絵本は「へいわなかぞく」と「せんそうのかぞく」など、同じものが平和の時と戦争の時でどう違うのかを対比してシンプルに描かれています。子ども達にも直感的にその違いが伝わり、読み終えた後にこんな声がありました。「平和のときはみんなでご飯を食べるけど、戦争のときは暗いね」「戦争は怖いね」「悲しい」と…「パパやママと一緒にご飯を食べること」「お風呂に入ること」

「一緒に寝ること」日常の生活が嬉しくて幸せなことなんだと気づいた様子でした。

また、「わたしの『やめて』」（自由と平和のための京大有志の会声明書【こども語訳】・文/塚本やすし・絵）「国と国のけんかを戦争といいます。戦争は、僕が殺されないように先に殺すんだという誰かの言い訳から始まります」と。戦争が簡単に始まること、そしてやめるのは難しいこと、「戦争を始めようとする人達に私は大きな声で『やめて』と言うんだ」と最後の言葉です。皆、真剣に聞いていました。

「子どもに伝える日本国憲法」（井上ひさし/文 いわさきちひろ/絵）「むごたらしい悲しい戦争から学び、私たちはこの国のカタチを憲法にまとめた。私たちが穏やかに生きることが他のなによりも大切だ。平和をつくろう」と書かれています。どれも玄関に置いてあります。是非、お読みくださいね。

絵本を読み終えて、クラスでの平和と戦争について話し合いました。「一番に並びたかったけど並べなかったときどうする？遊びたいと思っていた遊具、もう友達が先に使っていたら…それをどうする？」とどんどんさんにロールプレイをやってもらいました。どんどんさん達、皆の前で相手に対して優しい声掛けを演じて見せてくれました。

平和へとつながる一歩は、自分事として考えること、そして、皆で語り合うことだと思います。子ども達は、どうしたら平和になるのかを理解しています。仲間を大切にしてくれています。一人ひとり、個性豊かな異年齢保育だからこそ「自分の気持ちを相手に伝えること」「相手の声に耳を傾けること」を保育の中で大切にしていきたいと考えています。自分の心と体は自分のもの。嫌なことは「やめて」と言い合える関係が、未来の大きな平和につながると考えます。グローバルな時代を生きる子ども達、宗教も民族の壁を乗り越えて、「平和」を育てていく人へ成長していくと私たちは信じています。

保育園は、子どもが初めて社会を経験する場所です。友だちと遊び、時にぶつかりながら葛藤しつつ自分の思いを伝えたり、相手の思いを受けとめたりする中で、少しずつ「わかり合うことの心地よさ」や「違いがあることの大切さ」を感じていきます。

子どもと日々を共に生きる私達大人の姿勢も、平和への学びとなります。私達大人も平和を積んでいく仲間へ。誰一人とりこぼさないSDGsの子育てを目指しながら安心できるコミュニティを育てていきましょう。写真は、以上児組 赤羽台レストラン♪試食会